

【学生によるESD支援活動】

橿原市立今井小学校 第2学年生活科フィールドワーク 支援報告書

英語教育専修 修士1回生 谷垣 徹

1. 日 時 2018年6月28日(木) 10:00~11:30
2. 場 所 橿原市立今井小学校及びその周辺(今井町)
3. 参加者 橿原市立今井小学校 第2学年児童30名、引率教員5名
英語教育専修 糸綾香(修士2回生)、谷垣徹(修士1回生)、櫛乃里花(学部2回生)
社会科教育専修 仲村幸奈(学部2回生)

4. 概要報告

2018年6月28日(木)、橿原市立今井小学校第2学年生活科「どきどき わくわく まちたんけん」の授業が行われ、本学学生4名がその支援に関わった。今回の活動は同小学校の校区である、伝統的な町並みが保存されている今井町での町探検の2回目の活動に当たる。五つのグループに分かれ、地域で営んでおられる店舗を訪れ、インタビューを行うという活動であった。

今回の活動を通して私が学んだことを、以下の3点で振り返りたい。一つ目に「先生方の事前準備」、二つ目に「先生方の声かけ」、三つ目に「ユネスコ・ESDの理念と活動の往還」である。

一つ目は「先生方の事前準備」についてである。私たちは今回の活動に、児童の安全確保や児童への声かけ、写真撮影など、当日の単発的な支援として関わった。しかし先生方は、学習指導案の作成や学校内での協議・連携、インタビューに伺う店舗への連絡調整、そして本時に至るまでの学習活動の指導など、実に多様な準備をしてくれている。私たちが直接見ることでできたのはそのほんの一部にすぎないが、それら一つひとつが積み重なってこの活動が成り立っているということが分かった。



インタビューする児童の様子

二つ目に「先生方の声かけ」についてである。今回の活動では、児童が事前にインタビューしたい内容を話し合っていくつか質問を用意しており、それらを順に質問していた。児童の質問に対して店舗の方が答えられるとき、児童の理解に合わせて繰り返したり、児童の生活に関連させるような言葉をかけたり、児童の気づきやつぶやきを拾って意識化させたりと、児童への声かけの工夫をたくさん感じることができた。

三つ目に「ユネスコ・ESDの理念と活動の往還」についてである。私たちは日本で初めて大学としてユネスコスクールに認定された奈良教育大学で、ユネスコやESDの理念を核とした多様な活動を行っている。今井小学校ではユネスコスクールとして、その理念を取り入れた教育活動が行われている。先生方との打ち合わせの際に、ユネスコが目指す「教育・科学・文化の振興を通して、心の中に平和のとりでを築く」という理念をどのように教育活動に生かすことができるか、日々考え苦労されているということを知った。私たちも日々の活動の中で、そういったユネスコやESDの理念に立ち返り、それらと活動との関わりを追求していかなければならないと感じた。

教員を志す私たち学生にとって、この活動は非常に有意義な機会であった。この経験を大切に、今後も様々な活動に精力的に取り組んでいきたい。